

くしまくどち 黒島口説

(本調子)

1. さていむ替らん黒島や島ぬ流りや かない形祝う寿すぬ気色
かわ くしま しま なが かたいわくどちぶち ちしち
ゆた ゆ あみ とくかくしかじ しじ
豊かなる世ぬしるしさみえ雨や十日越風や静かに
ちく むづく まんさく
作る毛作い清作しょうていど
なかんとうありしじ いく ぶりむら ぶき みやざとつばんしゅやどやど
仲本東筋伊古保利村保慶や宮里番所宿々
はな あし うた さんしん
花ぬ遊びや歌や三線ていんとるていんとる
うむしる なま くどち
面白むぬさみ 今ぬはやしに口説ゆみゆみ
むら ありさまみわた ていん ししゆく かたど ちゆ ゆた たみあし
2. 村ぬ有様見渡しば天ぬ四宿に 形取りてい千代む豊かに民遊ぶ
ゆび ちなひ いり てーそー あがり てーそー
昨夜ぬ綱引きさみえ西ぬ大将 東ぬ大将
みなみなする あし まちむとうてい くるかに
皆々揃とつてい足や松本腕や黒金ゆしくばゆしゆし
ち ま ま すてい
いやいやちゃんと切りたさ負きやん負きやん袖ゆいすびば
しち たが あみちゆ みく ぶか みゆ う わか むるとつむ
3. 節ん違わん雨露ぬ恵み深きに くぬ御代は老いむ若きむ諸共に
みるく ゆ が ぶ や
弥勒世界報ぬしるしさみえばんどうさばく家ぬウランチャーがど
ちく ぶしたく とつ めー たかむいぬぶ
築ぬ干蛸け一取てい前ぬ高岡登とつていうんぶいか一ぶい
ちち なが ながし ん まやー
月や眺みてい可笑しや見ちゃさみやり猫がミャウミャウははー
ぬ なま くどち
ちゃんと逃げたさ 今ぬはやしに口説ゆみゆみ
くくる んみざくらにう ひ すていぐるむはな みやらびひ つい
4. しんと心は梅桜匂い引かさり 袖衣 花ぬ美童引き連りてい
みく るくぐちなま ぶん あし う わか
巡てい六月今どりはりふる豊年ぬ遊びや老いてい若さん
すてい ひ つい くし う はまう にしちま はな ぶむやま
袖や引き連り腰や押さりていすいすい浜下り錦交じりぬ花ぬ雲山
にう ぶくぶくさんさん ぶに てーそーかじとつ はやあし
匂い飄々香々 いやわたさばくい船ぬ大将舵取り早足
まに おーじ ぶなくいさ く ぶに ん
ハ'リハ'リ招く扇や舟子勇んでいへいへい濱く舟見ちゃりば
うむしる なま くどち
さていさてい面白むぬさみ 今ぬはやしに口説ゆみゆみ
なが くくる ありあき ちち うむ てい まさ まくとうちゆ
5. 眺む心は有明ぬ月に思いぞ 照り勝る誠浮世ぬしるしさみ
くしまみどんた ゆび はまう はまがんとつ
黒島女供達が昨夜ぬ浜下りさみえ浜蟹取らんでい
あし たかあしゆくあしちか みー
足や高足横足使とつてい ありありアダンぬ中から
うぶちみう ぶ ぶ
大爪打ち振り振り あがきつあぶへいへい
なま
今ぬはやしにうぐゆなはぶら

まことにこれまで黒島はかわらずに祭りを祝っている。豊かな世のしるし。雨は10日おきて風は静か、作物は全て豊作。

仲本・東筋・伊古・保利村・保慶・宮里の番所や家々では華やかな歌三線の遊びがていんとるていんとると楽しく行われている。この囃子で(島のことを)謡おう。

村の様子を見渡せば天の四宿に形取って人々は今日も豊かに楽しんでいる。昨夜の綱引きでは東西の大將が皆揃い出て足は松の根のよう、腕は黒金のように引っ張り合っている。勝負はついたよ、負けた負けた。袖結いをして降参したよ。

どの季節も雨露の恵みがあり、この御代は老人も若者も一緒に楽しんでいる。弥勒世界報のしるし。私は捌理(さばくし:役職名)の家に棲みついた鼠。家の干蛸を取って前の高岡に登ってそれを振り回していると月も可笑しそうにそれを見ているようだ。やせた猫がミャウミャウと鳴いたから、素早く逃げてきた。この囃子で謡おう。

まったく心は梅桜の匂いに惹かれている。袖に美しい乙女を引き連れて出かけよう。季節は廻って六月、ちょうどやってきた穂祈祭の遊びには、老人も若者も袖を引きあい腰を押されて浜に下りる。そこは錦がかった花の雲山のようで、よい香りでいっぱい。イーヤ!という我ら捌理の合図で、船の大將が舵を取りに早足で駆けて行く。出発を知らせるホラ貝の音に、風をあおる扇。舟子は勇ましく船を漕いでいる。その様子がなんと面白い。この囃子で謡おう。

島を眺める思いは有明の月のように照り勝っている。これそこの世なのだ。黒島の女たちが昨夜浜に下りて蟹を取ろうと高足横足で歩いてた。するとアダンの中から大爪を振りかざして蟹が出てきて、はさまれ痛いこと!

<八重山>

工 老四 工乙 乙四 六工 老四 工乙 乙四 工

1番 唄

さ合 てい む 老工 老工 かわ ら ん ん くる う しま あ や
 七六五工尺中上四老ニ命
 七 六 五 四 三 二 一

工 しま め う なが ああ り や かな あ いか あた あ
 工尺中上四老ニ命
 七 六 五 四 三 二 一

あ いわ お く と うぶ ち すぬ う ちし い ち
 工尺中上四老ニ命
 七 六 五 四 三 二 一

四 老四 上四 老四 五工 老四 上四 老四 老

さていむ替らん黒島や島ぬ流りや かない形祝う寿すぬ気色

1番はやし

	い	やい	いや		ゆた	かな	るゆ	ぬう	しる	しさ	みえ		あ
	工	合五	合七	合七	合七	合七	合五	合工	老尺	老工	老工	老工	老
七 六 五 工 尺 中 上 四 老 之 合	い	や	い	い	ゆ	か	る	ぬ	し	さ	み	み	あ
	工	上	五	七	五	七	五	五	上	尺	工	工	尺

	み	やと	かく	しい	かじ	やし	じか	に	ちく	るむ	ずく	いま	ん
	尺	老上	老尺	老四	老四	工乙	乙四	老四	工合	老四	老四	老上	老
上 四 老 之 合	み	や	か	し	か	や	じ	に	ち	る	ず	い	ん
	尺	上	上	上	尺	乙	四	四	く	む	く	ま	上

	さ	く	てい	どな	かん	とあ	りし	じ	いい	く	りむ	ら	ふ
	四	乙	乙四	老五	合五	合五	合七	合工	五尺	老工	老工	老工	尺
七 六 五 工 尺 中 上 四 老 之 合	さ	く	て	ど	か	と	り	じ	い	く	り	ら	ふ
	四	乙	四	四	五	五	五	五	上	尺	工	工	尺

	き	やみ	やざ	と	ばん	しゅ	ど	ど	はな	ぬあ	しび	や	う
	上	老尺	老上	老四	老四	工乙	乙四	老四	工合	老四	老四	老四	上
上 四 老 之 合	き	や	や	と	ば	し	ど	ど	は	ぬ	し	や	う
	上	尺	上	四	四	乙	四	四	な	あ	び	四	上

	た	やさ	んし	んて	と	と	むし	るむ	ぬさ	み	な	ぬ	や
	四	工乙	乙四	工合	老四	老上	老四	工乙	乙四	老四	工合	老四	老
上 四 老 之 合	た	や	ん	ん	と	と	む	る	ぬ	み	な	ぬ	や
	四	乙	乙	合	四	上	四	四	乙	四	合	四	四

	し	に	く	ち	み	み	(さあ	さ)
	四	老四	尺上	老尺	老工	老工	五	四
工 尺 中 上 四 老 之 合	し	に	く	ち	み	み	さ	さ
	四	四	上	尺	尺	尺	五	四

乙 乙四 六工 老四 工乙 乙四 工

豊かなる世ぬしるしさみえ雨や十日越風や静かに作る毛作い満作しょうていど
 仲本東筋伊古保利村保慶や宮里番所宿々花ぬ遊びや歌や
 三線ていんとるていんとる 面白むぬさみ 今ぬはやしに口説ゆみゆみ

2番はやし

い やい いや ゆび めち なひ きさ みえ え いら めて 老

工 合五 合七 合七 合七 合七 合五 合七 合五 合工 老尺 老工 老

七六五工尺中上四老合

そ あ がり めて そ おみ なみ なす るとぅ てい あし やま つい

工 老工 尺上 老尺 老上 老四 老四 工乙 乙四 老四 工合 老四 老

工尺中上四老合

む とぅ うでい やく るか にゆ しく ばゆ しゆ し いい やあ い

四 老四 上四 工乙 乙四 老上 老四 工乙 乙四 老四 老五 老工 老

七六五工尺中上四老合

や あ ちゃん とぅち りた さま きや んま きや んんす でいゆ いう す

五 老工 老七 老工 老工 老工 尺上 老尺 老上 老四 老上 老尺 老

七六五工尺中上四老合

び ば (さあっ さ)

工 老工 五四 工乙 乙四 六工 老四 工乙 乙四 工

工尺中上四老合

昨夜め綱引きさみえ西ぬ大将東ぬ大将 皆々揃とぅてい
 足や松本腕や黒金ゆしくばゆしゆし
 いやいやちゃんとぅ切りたさ負きやん負きやん袖ゆいうすびば

3番はやし

い やい いや 合七 合七 合七 合七 合七 合五 合工 ぬう する しさ みえ 老工 老工 ば 老

七六五工尺中上四老之合

ん どうさ ばく いい や ぬ うや ンチャ が どう ちく ぬふ し 老 老上 老尺 老四 老四 老四 上四 工乙 乙四 老四 工合 老四 老

工尺中上四老之合

た くけ とつ てい めえ ぬた かむ いぬ ぶとう ていう ンぶ いか 老 老上 老尺 老四 老四 老四 老五 老五 老七 老工 老工 老工 老尺 老上 老

七六五工尺中上四老之合

ぶ いい ちち やな がみ ていん かし やん ちゃさ み やか りま や 老 老四 老四 工乙 乙四 乙四 乙四 老上 老四 老四 乙四 老四 老四 工合 老四 老四 老

上四老之合

がみゃ うみゃ うう はは あ ちゃん とつぬ ぎた さ なま ぬは や 老 老五 老五 老工 老五 老工 老七 老工 老工 老工 尺上 老尺 老

七六五工尺中上四老之合

し に くどう ちゆ みゆ み (さあっ さ) 上 老四 老上 老尺 老工 老工 五四 工

工尺中上四老之合

乙 乙四 六工 老四 工乙 乙四 工

彌勒世果報ぬするしさみえ
 ばんどさばくい家ぬりヤンチャーがどう
 築ぬ干蛸けー取てい前ぬ高岡登とつてい
 うんぶいかーぶい
 月や眺みてい可笑しや見ちゃさみ
 やかり猫がミャウミャウ
 ははー ちゃんとう逃ぎたさ
 今ぬはやしに口説ゆみゆみ

5番はやし

い 工	やい 合五	いや 合七	く 合七	るし 合七	まみ 合七	どんた 合五	があ 合工	ゆび 老尺	ぬは 老工	まう 老工	りさ 老工	み 老
七 六 五 工 尺 中 上 四 老 之 合		い や 七 七	く 七 五	る し 七 七	ま み 七 七	ど ん た 五 五	が あ 五 工	ゆ び 尺 尺	ぬ は 尺 工	ま う 工 工	り さ 工 工	み 尺

え 工	は 老工	まが 尺上	んとう 老尺	らん 老上	でい 老四	あし 老四	やた 工乙	かあ 乙四	しゆ 老上	くあ 老四	しち 工乙	か 乙
工 尺 中 上 四 老 之 合		ま が 尺 尺	ん と う 上 上	ら ん 上 上	で い 上 四	あ し 上 四	や た 上 乙	か あ 上 乙	し ゆ 上 上	く あ 上 四	し ち 上 乙	か 乙

と 四	ていあ 老工	りあ 合五	りあ 合工	だん 合五	ぬみ 合五	か 合五	らう 合工	ふち 合五	みう 合工	ちふ 合五	いふ 合五	い 合
工 尺 中 上 四 老 之 合		り あ 五 五	り あ 五 工	だ ん 五 五	ぬ み 五 五	か 五 五	ら う 上 工	ふ ち 五 五	み う 上 工	ち ふ 五 五	い ふ 五 五	い 五

あ 工	がき 合五	つあ 合工	ぶへ 合五	いへ 合五	い 老四	なま 工合	ぬは 老四	やし 老四	に 老四	うぐ 尺上	ゆな 老尺	は 老
工 尺 中 上 四 老 之 合		が き 五 五	つ あ 五 五	ぶ へ 五 五	い へ 五 五	な ま 老 老	ぬ は 老 老	や し 四 四	に 四 四	う ぐ 上 上	ゆ な 尺 尺	は 尺

ぶ 工	ら 老工	(さあっさ)	乙四	乙四	六工	老四	工
工 尺 中 上 四 老 之 合							

黒島女供達が昨夜ぬ浜下りさみえ浜蟹取らんでい 足や高足横足使とってい
ありありアダンぬ中から大爪打ち振り振りい あがきつあぶへいへい
今ぬはやしにうぐゆなはぶら

四 考四 工合 考四 考四 工乙 乙四 考四 考五 考五 考七 考工 考工 考工 考尺 考上 考尺 考四 考四 工乙 乙
 が どの ちく ぬふ した くけ どの てい めえ ぬた がむ いぬ ぶど ていう んぶ いか ぶ いい ちち やな ぶ

四 考上 考四 工乙 乙四 考四 工合 考四 考四 考五 考五 考工 考五 考工 考七 考工 考工 考工 尺上 考尺 考
 み ていん かし やん ちさき み やか りま や がみゃ うみゃ うつ はは あ ちん どの きた き工 なま ぬは や

上 考四 考上 考尺 考工 考工 五四 工 合五 合七 合七 合七 合七 合五 合工 考尺 考工 考工 考工 考
 しに どの ちゆ みゆ み (さあつ) い やい いや いや いや いや いや いや いや いや いや いや いや いや

尺 考上 考上 考四 考四 工乙 乙四 考四 工合 考四 考四 考四 上四 工乙 乙四 考四 工合 考四 考四 考四 考
 ん ぬあ しび やあ うい ていわ かさ ん すてい やひ きち り くし やう たり てい い すい すは まう り に

五 考五 考七 考工 考尺 考工 考工 考工 尺上 考尺 考上 考尺 考上 考四 考五 考四 工合 考四 考四 考四 上
 し きま じり めう はな めふ わや ま にう いふ くぶ くさ んさん い や わし たさ ばく い ぶ

四 工乙 乙四 考上 考四 工乙 乙四 考五 考五 考四 工合 考四 考四 考四 上四 工乙 乙四 工合 考四 考上 尺
 に めて そ か じど りは やあ しは うば う 工合 考四 考四 考四 上四 工乙 乙四 工合 考四 考上 尺

上 工四 乙四 考工 考五 考工 考五 合五 合五 考四 工合 考四 考四 考四 尺上 考尺 考工 考工 五四 工
 ぶ にん ちやり ばさ ていさ ていう むし るむ めさ み なま ぬは やし に どの ちゆ みゆ み (さあつ)

工 合五 合七 合七 合七 合七 合五 合工 考尺 考工 考工 考工 考工 考工 尺上 考尺 考上 考四 考四 工乙 乙
 い やい いや いや いや いや いや いや があ ゆび ぬは まう りさ みえ は まが んど らん てい い あし やた か

四 考上 考四 工乙 乙四 考工 合五 合工 合五 合五 合五 合工 合五 合工 合五 合五 合工 合五 合五 合工 合五 合
 あ しゆ くあ しち かど ていあ りあ りあ だん めみ か らう ぶち みう ちぶ いぶ いあ がき つあ ぶへ い

五 考四 工合 考四 考四 考四 尺上 考尺 考工 考工 五四 工乙 乙四 六工 考四 工
 へ い なま ぬは やし に 考四 うく めな はぶ ら (さあつ) 乙四 六工 考四 工

1. さいわむ管らん黒鳥や鳥ぬ流りや かない形祝う寿すぬ気色 (畫かなる世ぬしるしさみえ雨や十日越風や静かに作る毛作り濤作しようていど 仲本東筋伊古保利村保護や宮屋番所々花ぬ遊びや歌や三線ていんとるていんとる 面白ぬさみ 今ぬはやしに口脱ゆみゆみ)
2. 村ぬ有様見渡しは天ぬ四宵に 形取りてい千代む量かに民遊ぶ (昨夜ぬ綱引きさみえ西ぬ大将東ぬ大将 箇々描とてい足や松本駒や黒金ゆしはゆしゆしいやいやちんど切りたさ貴きやん袖ゆいすびは)
3. 節ん進わん雨露ぬ恵み深きに くぬ御代は老いむ若きむ餅共に (弥勒世界帳ぬしるしさみえばんどさばい家ぬリヤンチャがど) 舞ぬ干堀け一取てい前ぬ高四登とていんぶいが一ぶい 月や眺みてい可笑しや見ちさみ やかり猫がマヨミリははー ちゃんど選ぎたさ 今ぬはやしに口脱ゆみゆみ)
4. しんと心は梅根匂い引がさり 袖衣 花ぬ美重引き連れてい (巡てい六月今どりはふる豊年ぬ遊びや老いてい若さん 袖や引き連れてい押さるていすすす浜下り鐘交じりぬ花ぬ露山 匂い籠々香々いやはしたさばい船ぬ大将船取り早足なりり招く扇や舟子男んていハイハイ履く舟見ちりばさていさい面白ぬさみ 今ぬはやしに口脱ゆみゆみ)
5. 眺む心は有明ぬ月に思いぞ 照り勝る鰯浮世ぬしるしさみ (黒鳥女供進が昨夜ぬ浜下りさみえ浜置取らんでい 足や高足横足使とてい ありありアダンぬ中から大爪打ち振い振い あがきつあぶへいへい今ぬはやしにうくゆなはぶら)